

# 文学作品と英語教育

—— 小・中学校における活用に向けた“The Last Leaf”の再評価 ——

The Role of Literary Texts in Primary/ Secondary Education :  
Reevaluating the Short Story of O. Henry's “The Last Leaf”

西山 裕子

NISHIYAMA Hiroko

武庫川女子大学大学院 教育学研究論集

第 17 号 2022 年

【研究ノート】

文学作品と英語教育

——小・中学校における活用にむけた “The Last Leaf” の再評価——

The Role of Literary Texts in Primary/ Secondary Education:

Reevaluating the Short Story of O. Henry's "The Last Leaf"

西山裕子\*

NISHIYAMA Hiroko\*

要旨

英語文学の研究者は、「文学こそ最良の教材である」と説くが、その一方で、英語教育の現場で「消えた文学」<sup>1</sup>への危機感を抱いている。本稿では、文学作品と英語教育との関係について、たびたび議論がなされてきた現状を踏まえながら、2020年度から、小学校、中学校、そして高等学校へと段階的に施行されてきた新学習指導要領の実施に伴い、英語文学教育を効果的に導入することで、英語のコア・カリキュラムで提唱されている学習目的が達成されることを示す。また、これまで英語文学研究においてほとんど議論の俎上に上がることがなかった問題点、例えば、教育学科において、小・中学校における英語文学の活用にむけて、中学校教諭第一種免許状（英語）取得を希望する学生がどのように英語文学に向き合うべきなのか、また、中学校の検定教科書で取り上げられることが多くあった、O.ヘンリーの短編小説“The Last Leaf”をめぐる、学生が将来、教師として英語文学教育を実践するときのような取り組みが求められるのかなどについて、調査結果をもとに、文学作品を用いた英語教育実践の可能性を探りたい。

1. 序——「英語教育に文学を！」<sup>2</sup>

「文学こそ最良の教材である」と謳われたのは、2004年10月に掲載された、『英語教育』増刊号の座談会においてであった。この冊子（特集I）では、斎藤兆史といった英語文学の研究者が中心となり、英語教育の現場に携わる教員を多数交えて、「英語の授業に[英語文学という最良の教材を]どう活かすか」について議論が重ねられている。しかし、今なお、その有用性と展望について、結論に至っていない。

実は、2004年の、斎藤らによる提言の背景のひとつに、継続的に提唱されてきた、学習指導要領における、コミュニケーション能力育成重視の方針がある。2003年といえば、文部科学省によって『英語が使える日本人』の育成のための行動計画の概要が示された年である。文部科学省が発表した『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想によれば、「英語の授業の大半は英語を用いて行う」ものとし、英語教員には、いわゆるイメージ教育で「授業を行うことのできる一定の英語力及び教授力を備える」ことが求められている。同様に、その動機づけとなる、海外留学や国際交流といったキーワードが並べられているなど、この計画は、「知的活動の基盤となる国語」力の向上を並行する形で推し進められていることがわかる<sup>3</sup>。

これに対して警鐘を鳴らす研究者もいる。例えば、江

利川は、「英語が使える日本人」計画は幻想であるとし、「独立国の国民が、これほど英会話熱に浮かされ、共同幻想に取り憑かれている例は、あまり例がないだろう」<sup>4</sup>と言及する。明治以降の英語教育の歴史を鑑みれば、コミュニケーション向上の試みと英語教科書への文学作品の掲載は、時代の変化とともに相容れないものとなっており、文学作品が周縁へと追いやられたことは歴然としている。

江利川同様に、斎藤もまた、教科書から「消えた文学」について疑問を投げかけている。中学校の学習指導要領にオーラル・コミュニケーション重視の方針が盛り込まれ、平成14年に小学校や中学校で「小学校の総合的な学習の時間に『国際理解』のための『外国語会話』と称して英会話を導入」することになった点について、斎藤は矛盾を感じていると述べ、平成20年度を目指して目標を達成しようとする、文部科学省によるこのような構想と計画が実現するかどうかを見極めたいとしていた<sup>5</sup>。

斎藤は、また、「現在の英語教育が『小コミュニケーション主義』である」と論じ、次のように言及する<sup>6</sup>。

「小さいときから英語でコミュニケーションをしていれば英語が使えるようになるというような幻想が蔓延していて、さらには、日本語を犠牲にしてまで英語をやろうというようなイメージまであ

\* 武庫川女子大学 (Mukogawa Women's University)

る。これは亡国の英語教育政策だと思います。

そういう流れの中で、文学もないがしろにされてきたわけですが、私は、文学は最良の英語教育の教材だと思っています。(以下、省略)」

本稿では、このような英語教育の流れと英語文学教育との、いわば、二項対立的な見地を出発点として、筆者が2021年度春学期に担当した授業を例にとり、文学作品そのものの研究や分析を目的とするというよりはむしろ、教材としての英語文学作品の可能性を探ることを目的としたい。2020年度以後の英語教育は、新学習指導要領が小学校から中学校、さらには高等学校へと段階的に実施される過渡期にあたる。そこで、小・中学校における英語文学作品の活用方法を検証しながら、検定教科書の英語文学を、教育学科の学生が「授業に〈生かす〉こと」を実現できるべく<sup>7</sup>、授業を通じて文学作品の意義や将来の英語授業における教育実践方法について学びを深め、英語文学が英語教育に資する役割について肯定的に捉えるきっかけを与えることが可能であることを示す。

## 2. 英語文学教育の流れと教育学科における英語文学教育の現状

そもそも、「文学とは何か」。イギリスの批評家テリー・イーグルトン (Terry Eagleton) は、「文学とは、『想像的』な文字表現 (writing) — 真実をありのままに語らない文字表現である」、つまり、「文学とは虚構だ」と定義することから始めて、ロシア・フォルマリストたちが主張する異化作用に言及したのち、「日常の言説」を分析し、文学が『非=実用的』な言説になりうると論じる。文学の正典を例に、「人間と文字表現との関わり方」(傍点は原文ママ)を多義的に捉えて、次のように結論づける<sup>8</sup>。

文学は、昆虫が存在しているように客観的に存在するものではないのはもちろんのこと、文学を構成している価値判断は歴史的变化を受けるものである。そして、さらに重要なことは、こうした価値判断は社会的イデオロギーと密接に関係しているということだ<sup>9</sup>。

この言説で着目すべき点は、「価値判断は社会的なイデオロギーと密接に関係している」という指摘である。イーグルトンが述べるように、詩、散文、戯曲といったジャンルにかかわらず、広義において英語文学は、実用的ではない(実用的な目的とは直接的に関連がない)かもしれないが、文学との関わり方や経験によっては、文体を楽しんだり、文学を自己体験とを関連づけて、発展的に応用したりすることも可能である。では、現状において、

教育学科の学生はどのように実際に英語文学に触れる機会があるのだろうか。

筆者が所属する教育学部教育学科では、2019年度から、小学校・中学校教育コースと国際教育コースにおいて、中学校教諭一種免許状(英語)を取得希望する学生を対象に、英語文学に関連する科目が開講されている。免許取得に関わる科目のうち、英語文学に関連する科目は、開講学年順に並べると、次の通りである<sup>10</sup>。

(付表3) 中学校教諭一種免許状取得に関わる科目

小学校・中学校教育コース及び、国際教育コース

- 専門教育科目
- 教科及び教科の指導法に関する科目
- 教科に関する専門的事項
- 英語文学

○英語文学入門	中英必修	第2年次後期
英語文学と日本	(中英選択)	第3年次前期
英語文学と世界	(中英選択)	第3年次後期

なお、表にある○印には、一般的包括的な内容を含む、とある。

次に、上記の表に示された科目のうち、2年次と3年次の到達目標を以下に示す<sup>11</sup>。

### 【第2年次後期】

英語専修は、

- (4) 中学校英語科教員又は小中一貫校の英語科教員として身につけておかなければならない知識・理解を、「リーディング I B」「ライティング I B」等の「教科に関する専門的事項」及び「特別活動の指導法」等の科目を履修することによって深め、実践的指導力につなげる。

### 【第3年次前期】

英語専修は、

- (5) 中学校英語科教員又は、小中一貫校の英語科教員として身につけておかなければならない知識・理解を、「英語文学と日本」等の「教科に関する専門的事項」等の履修によって深め、総合的かつ理論的に理解する。 (下線部は筆者による)

前述したように、英語文学をどのように授業に取り入れるべきかという議論は2003年から活発になされているが<sup>12</sup>、英語文学作品を実践的指導力に結びつけて、「小中一貫校英語科教員としての知識・理解と技能をさらに深める」ための具体的な方法・手順、授業デザインや、教科としての英語文学作品の分析は、ほとんどなされていない。

同学科では、上記に示した2つのコースの他に、「小学校教育コース」と「幼児教育・保育コース」がある。従って、本学教育学科において英語文学に関連する科目を開講する利点として、幼小中の接続が挙げられる<sup>13</sup>。

幼児教育・保育コース

- 科目一覧表 (1)
- 専門教育科目
- 幼児教育発展プログラム

「国際的な視野を持つ」

英語文学入門	選択必修	第2年次後期
英語児童文学	選択必修	第2年次後期

上記の科目は、小学校コースに所属する学生も履修可能である。また、中学校教諭一種免許状取得に関わる科目ではないものの、英語文学に関連する科目として、専門教育科目の、小中学校発展プログラム(一人ひとりの「強み」を育てるための科目)の、小学校・中学校教育コースと国際教育コースの学生を対象とした科目「英語文学の探究」(2022年度第4年次後期開講科目)も含まれる。

ここで、2017年に告示された新学習指導要領の内容について、変更点に注目しながら、要点を振り返っておきたい。吉田が述べるように、「実践的なコミュニケーションのための英語教育」を行うことについて、改訂前には、オーラル・コミュニケーション力や英語によるライティング力についてはあまり着目されていなかった。そこで、新学習指導要領では、ヨーロッパ言語共通参照枠

(CEFR)を参考に設定された基準値を明確化して、「論理的に表現することが目標化された」ものとなり、単なる「知識・技能」の修得にとどまらず、その知識を通じて「思考力、判断力、表現力等」といった総合的な側面にも配慮して進めていくことが重要視されているというのだ。これについて吉田は、『思考力』、判断力、表現力等」で求められる **Procedural Knowledge** (手続き的知識)は、「具体的な技能統合を含めたコミュニケーションな文脈の中で」のみ獲得できると指摘する<sup>14</sup>。2020年度に小学校で英語が教科化されたことにより、英語の到達目標は、「(「知識・技能を」活用して)実際のコミュニケーションを図ることができるような知識として習得される」こととなり、最終的には、「児童がコミュニケーションへの関心を持ち、自ら課題に取り組んで表現しようとする意欲や態度を身につけているかどうか」が評価対象となっている<sup>15</sup>。この学習のめあてを達成する方策のひとつが、初等教育においては、「読み聞かせ」である<sup>16</sup>。絵本などの読み聞かせは、子どもたちが日本語や英語という使用言語を問わず、慣れ親しんでいる活動であり、物語の内容や展開(登場人物間のコミュニケーション)などが、子どもたちの好奇心をくすぐる工夫もあり、挿絵も含まれていることが内容理解に繋がる。小学校で英語絵本を活用することについて、物語のストーリー性の高い絵本で読み聞かせをすることで、「児童たちが繰り返しリズムや韻を一緒に楽しむ」ことができたという事例もある<sup>17</sup>。

文学作品を学習教材として扱うこと自体、国語や道徳

といった教科の授業デザインで見られるように、珍しいことではない。浜本は、文学作品を授業で扱うことについて、英語教育と英語文学という視点を離れ、次のように述べている。

感動の体験は教えることはできないが、感動する場を用意することはできる。文学の授業デザインでは、感動的な出会いが成立することをめざして、学習者研究、作品選びと教材研究、指導内容と方法のデザイン、発展的な活動への示唆、などをおこなう<sup>18</sup>。

浜本が指摘するように、「文学の授業において、(中略)深く考えるきっかけをつくること」は、子どもたちの主体的な学びと、コミュニケーション活動につながる可能性がある。児童は、英語とともに国語や道徳など、教科を横断的に、かつ、統合的に学ぶことにより、より深くコミュニケーションな学びを主体的に身につけることになるのではないだろうか。そこで、他の教科との横断的な関連性を鑑みて、小・中学校における、英語文学作品の授業への活用方法について、2021年度春学期に教育学科の学生を対象に実施した調査結果をもとに検証する。

### 3. 研究の背景、目的と方法

既に述べたように、明治期以後、これまで数多くの英語文学作品が中学校の検定教科書に掲載された。しかしながら、文学教材としての英語文学作品の活用例は、学習指導要領の改訂とともに、少なくなったと言われている。戦前に副読本の定番とされていたベスト10のうち、国語の教科書で馴染み深い『イソップ物語』、『アラビアン・ナイト』、『ロビンソン・クルーソー』や『グリム童話集』というような英語児童文学作品<sup>19</sup>でさえ、今となつては、コミュニケーション力を図るためのツールとして活用できる学生は稀であろう。

#### 中学校学習指導要領—外国語

- 題材の選択に関する三つの観点
  - (ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
  - (イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化の対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。
  - (ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。(下線部は筆者による)

上記は、新学習指導要領の英語文学に関する記述のうち、(3)の教材選定の観点に関する抜粋である<sup>20</sup>。作品選びは授業デザインや、対象とする児童や生徒の年齢を考慮して慎重に行うべきであるが、(イ)に着目すると、コ

コミュニケーション重視の英語教育が推奨されるなかでも、文学そのものの意義はまだ消えてはいないことがわかる。2017年の新学習指導要領には、次のような記述もある。

英語の学習を通して我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心を持ち、理解を深めようとする態度を育成することが大切である。複数の文化に触れることが、我が国の伝統文化についての理解を深め、文化の多様性に対してより寛容になることに資するとともに、英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていくと考えられる。(中略)

ここでいう「文化」とは、日本語や英語を用いる人々の日常生活に密着した衣食住に関わる生活文化をはじめ、文学・化学技術・学問・芸術等に関することなども含む幅広い分野にわたる文化のことである<sup>21</sup>。 (下線部は筆者による)

このように、英語文学は、「思考力、判断力、表現力等を育成するような言語活動」として、さらには、「異文化を受容」し、「国際理解を深める」ために、新学習指導要領において再評価がなされている。

本調査の主な目的は、新学習指導要領で掲げられた英語文学に関する事項を踏まえて、学生が英語文学を「教職において、教科に生かすこと」を実現できるべく、授業前と授業後の意識の変化を示した上で、児童や生徒にとって有益な授業実践の可能性について調査することである。

この調査で扱うのは、O.ヘンリー (O. Henry) の短編 “The Last Leaf” (1907) である。彼の短編は、初等教育では「道徳」で扱われており、中等教育では英語教育の歴史の中でも、英語の検定教科書において扱われた頻度が高い<sup>22</sup> という理由で、中学校教諭第一種免許状 (英語) 取得を希望する学生にとって適した教材となっている。本調査によって、学生が、文学を通じた「異文化体験」をどのように授業に取り入れることができるのか、また、O.ヘンリーの短編を原著で通読するという経験を経て、学生が教師として将来的にどのように英語文学教育に携わることができうるのかについて、アンケート結果で示す。

この目的を達成するための方法として、2019年度に教育学科に入学した学生を対象として、2020年度後期に開講された「英語文学入門」(と「英語児童文学」)を経て、2021年度春学期に開講された「英語文学と日本」において、英語文学に対する意識調査を実施した。「英語文学入門」では、英米の主要な文学作品を文学史の流れを追いながら、原文とともに鑑賞・分析し、小・中学校におけ

る英語文学の応用や活用方法を考案した。「英語児童文学」では、子どもを対象とした英語で書かれた絵本や物語を読み解き、幼少連携を鑑みて、実践的な英語の活動に生かすことができるように、遠隔グループワークを設定し、アクティブ・ラーニングを用いた遠隔授業を実施した。「英語文学と日本」では、小学校教員養成課程外国語 (英語) コア・カリキュラムと中・高等学校教員養成課程外国語 (英語) コア・カリキュラムに記載されている、「授業 (指導) に生かす」という到達目標を重視して、講義に加え、一部で演習形式を採用した授業を合計 15 回実施した。

- (1) 調査期間：2021年7月22日実施
- (2) 調査対象：私立 M 大学教育学部教育学科 3 年生、筆者が担当した 1 クラス、35 名
- (3) 調査方法：無記名式。全ての質問項目は、Google Form への回答記述 (入力) 式で、自由記述を含む。
- (4) 有効回答：34 件

調査対象者には、Google Form への入力を求める前に、この調査結果を研究に用いることを理解し、趣旨に賛同する場合のみフォームに入力 (回答) するように指示し、調査を実施した。また、調査直前の数回の対面授業において、同様の内容を事前に説明した。その上で、この調査が一切授業評価と関係ないことを再度 Google Form に明記し、同意した場合のみ、入力するように伝え、調査内容を Google Classroom で配信し、調査を実施した。

(5) 調査項目：

- ① 【1. 読書経験について】「英語文学入門」や「英語文学と日本」の授業を受けるまでに、小説や絵本などどれくらい読んだ経験がありますか？本は、日本語、英語を問いません。
- ② 【2. 文学作品の意義について】小学校や中学校で文学作品を使って授業することについてどのように感じますか？文学作品は、絵本・詩・小説などのジャンルは問いませんが、英語圏の文学に限定します。
- ③ 【3. 授業前と後との意識の変化】英語文学を扱った授業を大学で文学作品に触れる前と後では、文学作品についての考え方に変化はありましたか？
- ④ 【4. 英語教育と文学について】児童や生徒にとって、英語圏の文学作品を知ったり学んだりすることは大切だと思いますか？
- ⑤ 【5. O. ヘンリーの短編 “The Last Leaf” について】原著講読の際、教科書 pp.51-61 のうち、英文で特に難解な箇所はどこでしたか？ページ数とともに、具体的に最も難しかった文章を記入してください。

なお、調査項目⑤について、テキストは成美堂出版の

原著,高瀬省三註解『O. ヘンリー短編集』(O. Henry: The Best Short Stories) 1959年版を使用した。

#### 4. 調査結果と考察

以下は、質問 1.~5.に対する調査結果である。この調査結果に基づき、数値を示したのち、考察と分析を行う。なお、調査結果は自由記述を含むが、学生の意見を図 1. から図 6. にまとめ、一部では入力内容の原文を引用しながら、順不同で記載した(下線部はすべて、筆者による)。

(1) 【1. 読書経験について】『英語文学入門』や『英語文学と日本』の授業を受けるまでに、小説や絵本などどれくらい読んだ経験がありますか？本は、日本語、英語を問いません」に対する調査結果

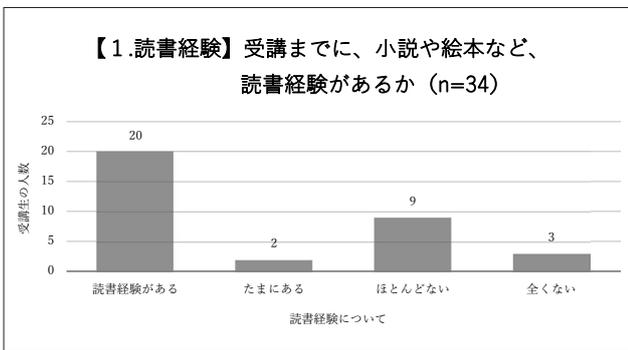


図 1

- 読書感想文や多読などの課題以外ではほとんど読んだことがありません。
- 日本語の小説はよく読みました。英語の小説は、大学の自主学習課題のみです。
- 大学生になってからは全く読書をしていません。

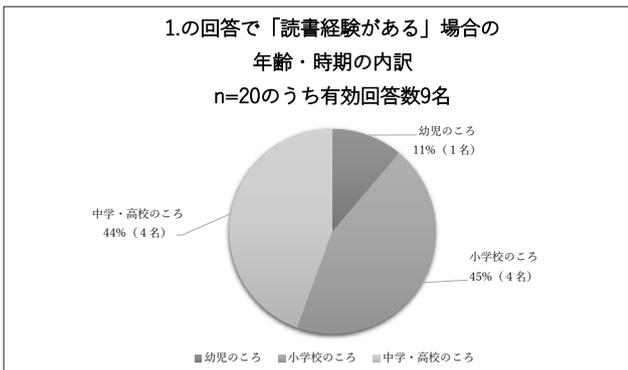


図 2

- 中学校時代は毎週図書室に通ったり、朝読書の時間に、小説を読ん [だりし (て)] でいました。
- 小さい頃 (6 歳ぐらいまで) は毎晩絵本を必ず一冊は読んでもらっていました。
- 中学になると週に一冊、月に一冊と年齢が上がるにつれて読む冊数は減って行きました。

(2) 【2. 文学作品の意義について】「小学校や中学校で文学作品を使って授業することについてどのように感じますか？文学作品は、絵本・詩・小説などのジャンルは

問いませんが、英語圏の文学に限定します」に対する調査結果

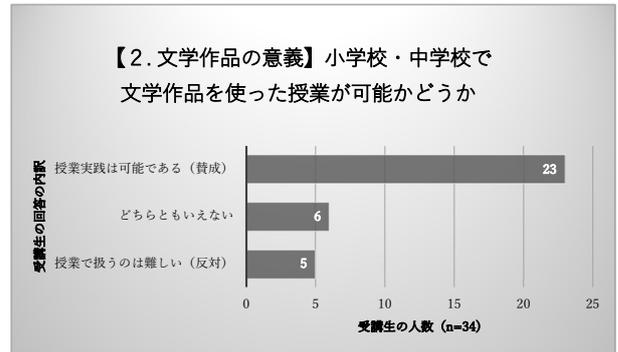


図 3

- 内容をかみ砕いて丁寧に扱うのであれば小学校や中学校でも文学作品を取り入れることはいいと思うが、特に小学生であればまだ単語や文法の知識がないので、有名な作品などは高校生や大学生で読むほうが作品のよさを理解できると思う。
- 小学校教育などで英語文学を取り扱うことは難しいと思っていたが、文化や道徳的な面から多くの学びがあるので良いと思う。
- 文法や基本的な教科書の内容だけでなく、文学作品を取り入れることで、英語の美しさや楽しさを実感でき、英語を学びたいという意欲にも繋がると思います。
- 短編であっても最初から最後まで読み終えた時の達成感は、文学作品ならではのものです。小学生は難しいですが、中学生であれば、文学作品で授業をすることは可能だと思います。
- 英語圏の文学を使うことはとても良いことだと思うが、英語があまり得意でない児童からすると苦手意識を与えてしまうのではないかと感じた。
- 興味を持ってもらえるような、かつそのクラスのレベルに合った教材を慎重に選ばなければいけないと思いました。
- 英語を完璧に話せるようになっても、相手の国や文化について全く知らなければ、円滑なコミュニケーションは成立しないと思います。(中略) 私たちが日本の文学作品や絵本に触れながら育ってきたように、英語圏の人々が幼い頃からどのような作品を読んできたのかを知ることで、その人の背景を知ることになり、より良い関係が築けるようになると思います。
- 扱うのであれば、(中略) 日本の文学以上に教師がしっかりと理解したりする必要があるのではないかと思います。
- 絵本は、文はもちろん、絵もあるので、文と絵がお互いを補いながらストーリーが展開されていると思うので、(中略) 絵本がいいなと思います。

(3) 【3. 授業前と後との意識の変化】「英語文学を扱った授業を大学で文学作品に触れる前と後では、文学作品についての考え方に変化はありましたか？」に対する調査結果

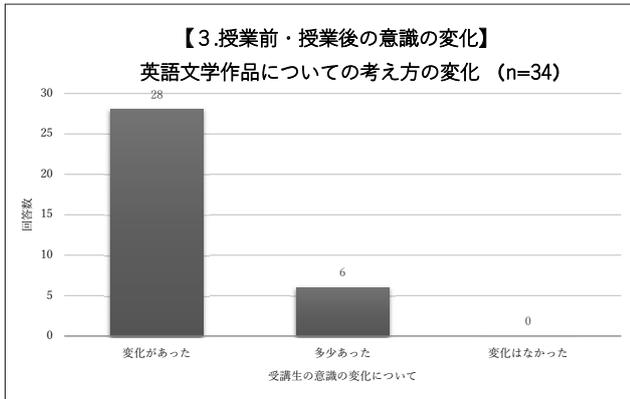


図 4

- はじめは難しそう、面倒くさいだろうと思っていたが、問題集のリーディングではなく、読み解く、ということを実際に体験することができてとても面白かった。読解だけでなく、外国の歴史や文化、時代背景についても学ぶことができたので、自分でももっと読みたいと思うようになった。
- 文学作品を大学生になってから初めて読んだが、作品の中にだんだんと吸い込まれていった。これまで学生生活の中で文学作品を苦手としていて自ら読むことはなかったが、(中略) もっと読んでみたいという気持ちにもなった。
- 大学で授業を受ける前は内容を何気なく読んでいたが、授業を受けた後はどのような人物が登場して、どのような服装で、どのような場所なのかということを読み取り、想像するようになった。
- 色々な作品に触れていくなかで短編のものなどもたくさんあって、教科書よりも楽しみながら英語を勉強できるというイメージになりました。

(4) 【4. 英語教育と文学について】「児童や生徒にとって、英語圏の文学作品を知ったり学んだりすることは大切だと思いますか？」に対する調査結果

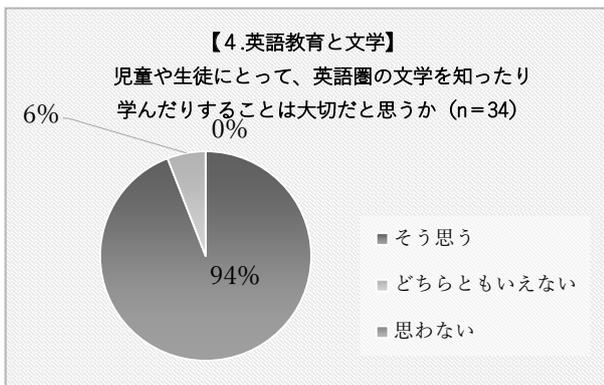


図 5

- 英語圏の文学作品を学ぶことで日本とは違う文化に触れることができます。実際に異文化を持つ人々と関わることも大切ですが、作品を通して価値観について学ぶことも出来ると思います。
- 大切だと思います。まず、文学というのは単なる空想というわけではなく、必ず背景にはその筆者の国の文化があると感じました。様々な作品の舞台を知ること・味わうことは、その子自身の世界を広げ、想像力を働かせることにつながると思います。
- 児童に対しては絵本や詩などを取り入れることで英語の音に親しむことができる。また日本にもあるお話の英語版の絵本などを扱うことで日本語と英語を対比して内容をつかむことができる。そして生徒に対しては小説にふれさせることで、英語を理解する力が向上するとともに外国の文化などを知ることができる。
- 私は異文化に触れることは多くの視点を持つことができ重要なことだと考えていて、英語圏の文学作品に触れることで異文化の理解にもつながると考えています。

(5) 【5. O. ヘンリーの短編 “The Last Leaf”について】「原著講読の際、教科書 pp.51-61のうち、英文で特に難解な箇所はどこでしたか？」に対する調査結果

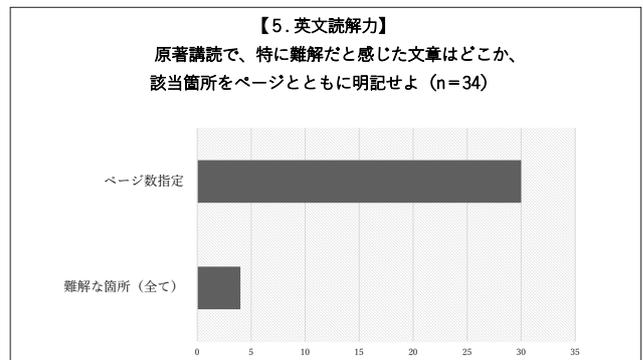


図 6

- ① Suppose a collector with a bill for paints, paper and canvas should, in traversing this route, suddenly meet himself coming back, without a cent having been paid on account! (p.6, ll. 6-9.)
- ② Mr. Pneumonia was not what you would call a chivalric old gentleman. A mite of a little woman with blood thinned by California zephyrs was hardly fair game for the red-fisted, short-breathed old duffer. But Johnsny he smote; and she lay, scarcely moving, on her painted iron bedstead, looking through the small Dutch window-panes at the blank side of the next brick house. (p.52, ll.7-14.)
- ③ He [Old Behrman] was past sixty and had a Michael Angelo's Moses beard curling down from

the head of a satyr along the body of an imp. Behrman was a failure in art. Forty years he had wielded the brush without getting near enough to touch the hem of his Mistress's robe. (p.56, ll. 8-14.)

④ When it was light enough Johnsny, the merciless, commanded that the shade be raised. (p.59, ll. 13-14.)

質問 1.~5.までの結果をみれば、【1】の読書経験では、読書経験があるとした 20 名のうち、幼少期や小学生の頃に絵本を読んだ（読み聞かせをしてもらった）という経験が最も多く、頻度や時期については、年齢を重ねると減少していることがわかる。物語を読んだのは、ほとんどの場合において、使用言語は日本語であり、1 名の学生が、「家にあるラダーシリーズ（平易な英語で書き直された、リトルド版）」で英語の原作に触れた経験があると回答している。【2】では、下線部を見ると、他の教科と関連づけた道徳的な学び、通読することの楽しさ、異文化や新しい価値観に触れられるという意味において、「意義がある」とする学生が多数いる（23 名）。一方で、5 名の学生が、英語学習として文学教材を扱うことの難しさを挙げて、現在の英語教育では、文法力や読解力が足りないことに対する懸念があると指摘している。また、自分が英語文学作品を授業で習った経験がないために、英語文学作品を授業で扱うのは難しいと感じるという意見もあった。とはいえ、意識の変化を問う【3】では、図 4 にあるように、82%が「(変化は) あった」と回答している。特筆すべきは、下線部の「想像するようになった」という意見である。これは、文学作品を通じた、主体的な学びへの移行を暗示すると考えられる。そこで、初等教育や中等教育の英語教育において文学作品を扱うことについて問う質問【4】の回答を見ると、34 人中 32 人（94%）が、扱うことについて積極的であることがわかった。下線部が示す通り、文化・背景など、異文化を体験することは、児童や生徒にとって有益であるとする回答が多く見られた。また、二重下線部は、学生による、具体的な活用方法の例である。これは、英語文学が英語学習者を異文化体験へと誘う、コミュニケーション力向上のためのツールとして機能すると考えられる、一例となるであろう。しかしながら、円滑に導入することには問題点もある。【5】では、教育現場で教員が英語を指導する際の問題点が学生の指摘により明らかになっている。回答では全体的に振れ幅があったが、「特に難解である」として、指摘が多かった箇所は、学修履歴や理解度などによる個人差もあろうが、①から④までの原文からの抜粋箇所であった。それぞれの下線部に着目すると、①では、suppose が文頭に来たときの条件法の扱いや、「～せ

ずに～することはない」というような英語独特の表現・文法につまづいていることがわかる。同様に、②の後半の表現（付帯状況を示す“..., ~ing”の使い方）や、④の動詞の使い方に関する疑問は、文法理解が不十分である結果である。②の前半、出だしの表現では、「擬人化」が問題であり（主語の「肺炎」が SVC の第二文型として機能することを見破ることができるかという問題）、③については、国語力や神話といった、英語力そのものとは関係のない、文化的知識が問われる描写となっている。

このようにして、学生が原作で短編小説を読了することによって、英語文学教材は、英語教育の問題点を浮き彫りにしながらも、新学習指導要領で掲げられている国際理解のために、統合型学習の題材として活用される可能性があることが示される結果となった。

## 5. まとめ——主体的な学びと英語文学

学校教育の現場においては、O.ヘンリーの作品は、東京都では小学校の道徳の教材として扱われたり<sup>23</sup>、中学校の検定教科書では、読解演習の一環として、リトルド版が採用されたりすることが多くあった。にもかかわらず、文学史においては、正典として扱われることはなかった。とはいえ、教員養成課程の学生が原作を文化的・歴史的背景を踏まえて忠実に読み、授業で生かすことができれば、「英語文学と日本」の授業で扱った“The Last Leaf”をはじめとする O.ヘンリーの短編小説は、従来の批評史では見受けられない、新たな活用場を見出すことになるであろう。

すでに論じられているように、2003 年度以後、「文学」と「英語教育」との相互作用について、日本英文学会でも活発な議論がなされてきたが<sup>24</sup>、草薙による、「主体的・対話的で深い学び」との関連において英語文学がなしうる学びを検討した論考などを踏まえれば<sup>25</sup>、議論の争点は、理論から実践的な学びへと移行しつつあることが窺える。

英語文学の研究者が危惧するように、文学教材だけでは、新学習指導要領で求められている、学習のめあてを実現するまでに、まだ多くの時間を要するかもしれない。しかしながら、教育学科の学生が、今後、主体的に英語文学に関わることによって、小・中学校の検定教科書で採用された文学作品の再評価に繋がる可能性が一段と高まるであろう。教師を目指す学生が、英語文学教育と対話的で主体的な学びを中心に据える現代の英語教育とを有機的に結びつけるための視点や力を身につけることで、文学作品と英語教育との関係に、新たな可能性が生まみ出されてゆくのではないだろうか。

注

- (1) 高橋和子『日本の英語教育における文学教材の可能性』ひつじ書房, 2015, pp.19-21.
- (2) 「〈特集Ⅰ〉英語教育に文学を!」『英語教育』増刊号,大修館書店, 2004, pp.5-57.
- (3) 文部科学省「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」2002, より抜粋。  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm#plan](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm#plan) (最終アクセス日: 2021年10月21日)
- (4) 江利川春雄『日本人は英語をどう学んできたか—英語教育の社会文化史』研究社, 2008, p.13.
- (5) 斎藤兆史『日本人と英語—もうひとつの英語 100年史』研究社, 2007, pp.209-213.
- (6) 前掲(2), p.6.
- (7) 高橋和子「英語の授業で〈生かすこと〉ができる英語文学を考える—外国語(英語)コア・カリキュラムを背景に」『第92回大会 Proceedings』日本英文学会, 2020.  
<http://www.elsj.org/meeting/Proceedings/92.html> (最終アクセス日: 2021年10月21日)
- (8) イーグルトン, T 『文学とは何か—現代批評理論への招待』大橋洋一訳, 岩波書店, 1985, pp.3-25.
- (9) 同上, p.25.
- (10) 『履修便覧』武庫川女子大学, 2020, p.76.
- (11) 同上, pp.81-82.
- (12) 土屋結城・伊澤高志「文学という行為と英語教育」『実践英文学』67, 実践女子大学, 2015, pp.1-16.  
[https://jissen.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1362&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=30](https://jissen.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1362&item_no=1&page_id=13&block_id=30) (最終アクセス日: 2021年10月21日)
- (13) 前掲(2), p. 68.
- (14) 吉田研作「外国語教育改革の基本的な考え方」『中等教育資料』文部科学省, 2020, pp. 14-17.
- (15) 金森強・本多敏幸・泉恵美子『主体的な学びをめざす小学校英語教育—教科化からの新しい展開』教育出版, 2017, p.17.
- (16) 同上, p.98.
- (17) 坂本南美「文学教材を効果的に活用する英語授業デザイン—中学・高校・大学での学びのつながりを見据えて」『第89回大会 Proceedings』日本英文学会, 2017, pp. 107-108.
- (18) 浜本純逸「文学授業デザインのために」『文学の授業づくりハンドブック・授業実践史をふまえて・小学校・低学年編』溪水社, 2010, p.3.
- (19) 前掲(4), pp.58-69.
- (20) 『中学校学習指導要(平成29年告示)解説 外国語編』文部科学省, 2017, pp. 97-100.
- (21) 同上, p.99.
- (22) 田口誠一「中学校英語教科書のリーディング教材研究」『尚綱大学研究紀要 人文・社会科学編』49, 尚綱大学, 2017, pp.1-14.
- (23) 平成28年3月東京都教育委員会による「小学校版東京都道徳教育教材集」では, 5・6年を対象とした教材として, 「ベールマンさんのけっ作〜オー・ヘンリー『最後の一葉』より〜」がある。  
[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/morality/replacement\\_03.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/morality/replacement_03.html) (最終アクセス日: 2021年10月21日)
- (24) 前掲(12), pp.1-2.
- (25) 草薙優加「文学作品を使う英語教育が目指す〈主体的・対話的で深い学び〉とは」『第90回大会 Proceedings』日本英文学会, 2018, pp.101-102.

謝辞

2020年度秋学期から2021年度春学期までの1年間, 積極的に英語圏の文学作品に向き合い, 原著講読の解釈に取り組んでいた, 2021年度前期「英語文学と日本」の受講生のみなさまには, 本調査に快く協力してくれたことに, ころから感謝致します。